

# Heroldo de HEL

N-ro 47 majo-julio 1993

ORGANO DE  
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

北海道エスペラント連盟

062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号  
北海学園大学 切替英雄 気付  
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO  
Kirikae-Hideo, Hokkaigakuen Daigaku,  
Asahimachi 4-1-40 Tojohira-ku,  
Sapporo-shi, 062, Japanio

## ENHAVO

北海道エスペラント合宿報告 Raporto de kunloĝado de esperantistoj en hokkajdo	2
原作文学に魅せられて Mi Ĉarmiĝis literaturaĵon de esperanto	4
肩の凝らないエスペラント語 Facila esperanto	5
萩原謙造について(2) Pri HAGIHARA Kenzoo (2)	6
アイヌ新法試訳(3) Propono por LA LEGO PRI LA AINA NACIO(3)	8
アイヌ人名と朝鮮の創氏改名 Japanigo de nomoj Ainaj kaj Koreaj	9
カンボジアエスペラント協会設立に北海道の仲間 が協力 Hokkajdaj samideanoj helpas Kamboĝanojn	12
エスペラント文学を翻訳 Ni japanigis esperantan literaturon	15
ここにもエスペラント仲間が Jen estas samideanoj	15
会費納入のお願い Bonvolu pagi kotizon	16
近況報告 Novajdo	16

## 編集部から El redakatejo

本紙前編集者カワハラ・カズヤ(平間一弥)から皆さんの激励の手紙とお見舞への、お礼の手紙がきました。当初は肺ガンの疑いがあったものの、肺の中に病巣があるがそれほど深刻なものではないとのことです。大部屋に移ってワープロが使えなくなったことや、外泊許可をえて5月末に関西大会に参加したところ、医者に県外への外出・外泊を規制されたことが記されていました。カワハラさんらしいですね。

5頁に掲載のFacila esperantoは、1992 aprilo - oktobro N-ro 43 11頁に掲載したのですが、編集者のミスで誤記が多かったため、改めて訂正のうえ再掲載したものです。執筆者及び読者の皆様に御迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。今後とも誤記の指摘や記事への意見をどしどしお送りください。

世界大会、日本大会の時期となり、北海道からもそれぞれ何人かが参加します。次号には、参加者の記事を書きたいので、原稿をお待ちしています。

(阿部映子 Ejko Abe)

岩見沢-Kunloĝadoを振り返って  
-Sukcese kaj mal- en lüamizaüa Kunloĝado

Acuüi HOüIDA (Tomakomai)

Jen kelkaj punktoj mem taksi kaj kritiki pri nia maja Kunloĝado en lüamizaüa por plibonigi la venontan.



[プラス面]

\*今回始めて岩見沢での合宿に遠来の三ツ石講師を含めて27名が参加できた。

\*そのためもあってjurnalistojの関心を引くことができ、北海道新聞、岩見沢新聞に記事が出た。  
\*三ツ石講師により初めてエスペラント文学に関わる講義があり、エスペラントの文化的伝統を考える機会が持てた。

[マイナス面]

\*初等クラス講師の打合せが行われず、はっきりした方針が立てられなかった。その結果、

\*今回予定した新しい試み—スライドとテープにより、視聴覚的に進めることは実現できなかった。(装置の故障、講師予定者の急な旅行という事情もあったが)

\*好天に恵まれたことを考えると、前回まであったPIKNIKOを予定すべきだった。息抜きがあつて良かったのではないか。

\*検定試験参加者は去年より減り、意義が十分理解されなかった。

\*歌う機会が少なかった(予定の歌集が最後の日に到着した)。

[総合的に]

毎度新しい試みに挑戦している意義はあるがもっとキメ細かい準備によってより効果あるものにする必要がある。

エスペラント語による講義を聞く合宿参加者



【岩見沢】国際語「エス

## エスペラント合宿で学ぶ

岩見沢で道連盟

ペラント」の普及を進める道エスペラント連盟の合宿が十四日から三日間、岩見沢市内の法然寺で開かれ、札幌、苫小牧、岩見沢などから会員ら約三十人が参加、文法学習やエスペラント語で書かれた文学の講読を行った。

講師は長年エスペラント普及活動を続ける三ツ石清さん(ふじ)名古屋在住。エスペラント文学について講義をしたほか、参加者が合宿での体験などをエスペラント語で発表し合った。

エスペラント語は、日本国内で約千人、道内でも七十人ほどが普及活動に当たっている。

# 地球は一つ 国際共通語学ぼう

## 岩見沢で初開催、全道から30人参加

### エスペラント語の春の合宿

国際共通の言葉「エスペラント語」。

日本エスペラント学会北海道支部主催による春の合宿が、岩見沢市内の浄土宗法然寺（渡辺晋道住職）で十日から二泊三日で行われ、全道から集まった約三十人の会員が、文法や音声、語順、翻訳の表現法などの意見・発表交流や検定試験に臨んだ。

エスペラント語は、一八八七年ユグヤ人の眼科医、ラザロ・ルドルフォ・サメソフが発表。敬慕をキリスト教信者のサメソフは、言葉・宗教が違っても互いに引き起こされる争いをもっと互いの理解と寛容があればと願い、「人類の一人、国境なき世界」を基本姿勢に異なる民族を結びやさない共通語を創ったもの。以後約百年、現在オランダの都市ロッテルダムに本部を置きヨーロッパを中心とした世界百十数カ国で五十万から百万

人がエスペラント語を使用・学習している。

岩見沢市での合宿活動は今月初めてで、渡辺住職も会員であることから本堂を会場に開かれた。今回はエスペラント語歴四十年となる、名古屋在住の三ツ石清さんを講師に招いた講義が参加者の人気を呼んだ。

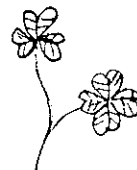
二日目の講義では、言葉のフイーリングをうまく相手に伝える新語を自由に造語することにより、しなやかな表現、豊かなイメージと生まれ変わるエスペラント語の語順などを研究し合い、詩的な形容詞に注目する大切さを学んだ。また、三ツ石さんはエスペラント語に翻訳される日本の名作「吾国」や「ハムレット」などをよりよい世界文学を統み比べる大切さを訴え、学ぶことを指摘していた。



三ツ石さんの講義に熱心に耳を傾ける受講者—法然寺本堂—



今回の合宿は、渡辺晋道さんの多大な御尽力をいただきました。会場提供並びに報道や食事及び寝具についての御手配等本当にありがとうございました。奥様、お母様にも心からの感謝を申し上げます。



# 原作文学に魅せられて

~~~北海道エスペラント合宿に参加~~ (札幌・児玉広夫)



今年の連盟主催の合宿は、従来の5月連休から外れた5月14日(金)~16日(日)に岩見沢市の浄土宗法然寺で行われた。当初の心配をよそに参加者数が27名とあるから、まずは成功というべきか。

特に、永年エスペラントと係わってきた私にとっては、旧い同志の三浦、浜田両氏などと、この合宿を通じて久しぶりに対面できたことは嬉しい。

そのうえ、特別ゲストとして名古屋からお迎えてきた三石 清さんとは、6~7年ぶりの再会で、いつに変わらぬ元気なお姿に接したことは大きな喜びである。しかも、中級クラスの全課程に参加し、三石さんから直にご指導をいただいたことは幸いであった。

氏は、エスペラント文学の素晴らしさを存分に味わってもらおうとの配慮から、三つの小作品(いずれもエスペラント原作)を用意されていた。

その一つは、J. FORGE著作(1955)のSES LETEROJ (6通の手紙)で、物語りは、教師とある女子受講生とのふとした情事がきっかけで、彼女から最初に教師に宛てた手紙... 教師が侵した行為を責め、己の正当性を主張する... の文意が、手紙の回を追うごとに微妙に変化して、6通目に至りその後の結末やいかにと、読者を引き

つけて離さない。繰り返し読めば読むほどに味のある文学作品である。

その二つは、T. JUNG著作(1924)の DU PINARBOJ(二本の松の木)の悲恋物語。

著者が松の木の下でうとうとしていると、風に揺れる木の葉の音が耳元でささやく。やがてそのささやきが若い二人の悲恋物語へと展開して行く。

そして、恋人戦死の報が入ったとき、すでに身ごもっていた彼女は悲嘆に暮れて、松の木から身を投じてしまうというくだりだが、戯曲的な筆致が特に深い感動を呼び起こさずにはいられない絶品である。

その三つは、J. BAGHY著作(927)の LA METROPOLO MALSATAS(都会は飢えている)。ある貧乏学生が飢えと寒さに苦しんでも、大都会では誰ひとり顧みようとしない中で、一人の娼婦が暖かくこれを迎え入れるという話の筋だが、それが大変面白く展開されて、読者をホットさせてくれる。

そして、今から66年前の作品ながら現代の風潮を予見した痛烈な社会風刺のように思えてならない。

とまれ、今回の合宿は私にとりエスペラント学習に専念できた実り多いものであったと、改めて幹事諸氏に心からその労を謝したい。



L

I

B

R

O

J



肩の凝らない

エスペラント語

(5) 高橋 要一

Facila esperanto

択捉島天寧で終戦となり、帰国の夢破れ、欺され続けて上陸したところが極東シベリア・ソフガワニ。そこで2年間、つらい目にもあったが、ソ連人の温かい人情に触れたこともあった。

ある日、峠を越えて糧秣受領に行った先のパン工場の事務所で若い女性事務員に出会った。千島を出発するとき悪いデマにのせられて、家族の写真からお守りまで投げ捨てて鉛筆一本さえ持たない私にとって、彼女が使っている鉛筆と紙は全く魅力であった。思い切って回らぬ舌で頼んでみた。話はまとまった。ところが驚いたことに彼女は鉛筆は一本しかない、と言って半分に切ってくれた。

こんなときに自分ならどうしただろう。われわれの常識では一本しか持っていなければ断るところだ。紙はこれも半分くれたが、日本軍隊の原稿用紙だった。つらい捕虜生活のなかでの思い出深いひとコマである。50年近い年月を経て今でもこのことは心に焼き付いている。それにしてもたとえ回らぬ舌でも言葉が通じ合うことは素晴らしいことだ。

- <31> せわ (世話) (助力) helpo; (面倒) prizorgo; vartado; flego; (尽力) klopodo; peno; (仲介) perado; (保護) patronado; ŝirmado; protekto  
 ☆老人(こども)の世話をする prizorgi (flegi) maljunulon (infanon)  
 ☆就職の世話をする klopodi (peni; helpi) trovi laboron  
 ☆世話のやける子 temporaba (ĝena; emba-

rasa) infano

- ☆世話をかける esti protektata (ŝirmata)  
 ☆世話好きな prizorgema; flegema; kompleza; servema  
 ☆何くれとなく世話をやく prizorgi (flegi) ĉiamaniere  
 ☆大きなお世話だ Ne ĝenu vin pro mi!  
 ☆いろいろお世話になりました Mi multe ĝenis vin.  
 <32> 心苦しい embarasa; ĉagrena; aflikta  
 ☆心苦しく思う embarasiĝi; ĉagreniĝi; afliktiĝi  
 <33> ほける (呆ける) frenezumi; (色が) paliĝi; (老化して) reinfaniĝi; (ビントが) malpreciza; nebula; svaga  
 <34> 取沙汰 onidiro; famo; (悪意の) klaĉo  
 ☆人の噂(取沙汰)などに耳をかすな Ne klinu viajn orelojn al onidiro.  
 <35> せめて almenaŭ  
 ☆せめて彼が生きていたら Se almenaŭ li vivus.  
 ☆せめて夕食でもご一緒に Almenaŭ vespermanĝon ni prenu kune.  
 ☆せめてもの幸いだ Almenaŭ estas feliĉe.  
 ☆せめてやかましく言わねばよいのに Li devus almenaŭ silenti.  
 <36> かける (吊るす) pendigi; (カーテン、幕などを) drapiri; meti;  
 ☆壁に時計をかける pendigi (meti) horloĝon al (sur) muro  
 ☆窓に赤いカーテンをかける drapiri fenestron per ruĝa kurteno  
 ☆彼の肩に手をかける meti la manon sur lian ŝultron  
 ☆赤ちゃんに布団をかける meti kovrilon sur bebo

## 萩原謙造について (2)

Pri HAGIHARA Kenzoo (2)

Acuŝi HOŠIDA (Tomakomai)

Jen iom da aldono al la historio de HAGIHARA Kenzoo, nia pioniro en Olaru dum 1920 ~ 1923. Nun mi aldonas kelkajn epizodojn kiam li estis estrarano de JEA kaj instruisto en la Liceo Sugamo-Gakuin, k. a kun indiko de fontmaterialoj.

前の記事(小樽のPIONIRO)で「彼の協会幹事としての仕事はほとんどなかったと思われる」と書いた。在任期間が実に短かったからだが、この時期に、それまであったJEAを棚上げてJEIを発足させるという運動組織の革命が起こっており、彼は幹事としてそれにかかわっていた。こう考えると、上の表現は余り適当でなかったかも知れない。期間は短くても歴史的には重要な時期だったのだ。当時の記録では彼の名が何度か出ている。

JEI設立を決めた1919年12月20日のJEA臨時総会の出席者に協会五幹事の一人として「萩原」の名がある。又決議には、「(JEI創立の)原案の辞句修正並に創立の事務を小坂彌二、浅井惠倫、藤沢親雄、松崎克己、萩原謙造五氏に委任する事。」となっている。(RO1920年1月号=第1巻第1号より)

RO同年3月号にフィンランドから最初の公使として日本に来たエスペランティスト Ramstedt 歓迎会の記事がある。ロシア人も2人いて話したが――「Seriŝev 氏の流暢なる弁舌と、Kuznecov 氏の快速な演説を少年エスペランティスト萩原君が即席に巧に通訳せられたのは殊に来席の人々を驚かした」と彼の talenta knaboぶりを伝えている。

小樽時代の彼の文(日本語)「エスペラントの善用」がRO1921-4号に出ている。1921-3号にてた高橋邦太郎の「エスペラントの悪用」に対

する反論であった。「悪用」はUEAの「機関雑誌十二月号(一月号にも連載)」に出た「『日本の文明』と題せる一文」は、祖国の欠点や、それに対する不平を世界的雑誌上に洩らしたもので、「貴君の行為は非国民的否売国的ではありませんまいか」と筆者を非難している。

これに対し萩原の「-善用」では「有りの儘の事を有りの儘に述べるのに何の不都合がありません。有りの儘に-述べたのを――売国奴呼ばりなされるにも及びますまい。あまり排外的鎖国的盲目的国粹主義ではありませんまいか」と論じたうえ、「国民の短所とか欠点とかの公表はやがてそれらの匡正の近道となり、人類進化に役立つ――。従って悪用されたのではなくて善用されたのではありますまいか。」と結んでいる。

国境を越える自由な通信を「エスペラントの悪用」とするこの考えは、やがてエスペラントをLa Danĝera Lingvoとして弾圧した独裁国家の認識と通ずるところがあるが、エスペランティストにもそう考える者があったわけだ。しかし萩原はこのような「臭いものにふた」式の愛国者とは相容れぬところに立っていた。

ついでながら、問題のUEA機関紙への投稿者は萩原ではない。JEI記者(編集者)は、当時ジュネーブ駐在の外務事務官だったJEI委員の藤沢親雄の「筆であると思う」と付記している。藤沢はその後皮肉にもエスペラント報国同盟の中

心人物として、大日本帝国の国家目的のためエスペラントを使えと主張することになる。

「先生は身長1.62、体重50kg位、瓜実顔で、俳優ていうと松本幸四郎型の顔だった」と、巣鴨学園での教え子宝木武則は「レジスタンスの青春」で書いている。この本は日光への修学旅行のときの事件を紹介している。

修学旅行の生徒同志のトラブルがあり、他校の生徒が木刀をもって旅館に押し掛けてきた。剣道部の大男どうしの打ち合いの中に萩原先生が割って入った。「『止めろ』先生は大声をあげた。すばらしい気魄。先方の男の木刀が先生の肩にあたった。これにひるんだか、双方の生徒が打ち合いをやめた。――萩原先生の勇気ある一つの行動は、生徒に大きな感化を与えた。――1938年2月人民戦線教授グループが検挙されたとき、萩原先生も検挙された――」

この「教授グループ」を当時の特高警察は「労農派教授グループ」といい、部外秘の記録「特高月報」昭和13年2月分では「2月1日朝35名を検挙――」とあるのがそれだろう。この号に出ている検挙者達の「組織一覧表」の労農派グループ内雑誌部に「萩原」の名があるのが彼らしい。しかし起訴、判決の記録は見つからない。当時国民を戦争協力一本に引き込むため戦争に批判的な集団は皆弾圧するのが政府の方針だった。検挙は

したが、裁判にかけるほどの「罪状」も出なかったのだろうか。しかし拘留中健康を害した彼は、この2年後、まだ三十代で世を去ることになる。

宝木さんはこのことを、巣鴨学園で当時英語教師だった木村先生（故人）に生前聞いた。「昭和15年末ですか亡くなりました――浅草のお寺で葬式しました――。」

かつてのJEA-JEIの天才少年、小樽で最初の講習会を開いたPIONIRO萩原謙造は、あの厳しい時代を力一杯生きて短い生涯を終えた。今は当時と比べて文通も海外との往来も遥かに自由になったが、我々はこの条件を生かしてエスペラントを充分に使っているか、反省することが多いようだ。

以下前の記事の一部を訂正（資料追加）する。  
\*松崎克己、萩原謙造がJEA幹事に就任したのは――1919年11月22日

（日本エスペラント運動資料Ⅰ）

――同年10月22日（RO1920-1）

と、ひと月食い違っている。

\*1923年、萩原が去った後の小樽Esp会代表は、岩重祐でなく 岩垂裕

（JARLIBRO, 1923 JEI発行）

\*資料のあちこちに誤植（萩原）があるが萩原に直した。

## PROONO POR LA LEGO PRI LA AINA NACIO (3)

### 第1 基本的人権

アイヌ民族は多年にわたる有形無形の人種的差別によって教育、社会、経済などの諸分野における基本的人権を著しくそこなわれてきたのである。

このことにかんがみ、アイヌ民族に関する法律はアイヌ民族にたいする差別の絶滅を基本理念とする。

### 第2 教育・文化

北海道旧土人保護法のもとにおけるアイヌ民族にたいする国家的差別はアイヌの基本的人権を著しく阻害しているだけでなく、一般国民のアイヌ差別を助長させ、ひいてはアイヌ民族の教育、文化の面での順当な発展をさまたげ、これがアイヌ民族をして社会的、経済的にも劣勢ならしめる一要因になっている。

政府は、こうした現状を打破することがアイヌ民族政策の最重要課題の一つであるとの見解に立って、つぎのような諸施策をおこなうこととする。

- 1 アイヌ子弟の総合的教育対策を実施する。
- 2 アイヌ子弟教育にはアイヌ語学習を計画的に導入する。
- 3 学校教育および社会教育からアイヌ民族にたいする差別を一掃するための対策を実施する。

\*\*\*

\*\*\*

\*\*\*

\*\*\*

注) 民族: gento-nacio-etno-popolo, 阻害する: tuŝi-bari-obstrukcii 等語の他あり。「基本的人権」はUEAの「世界人権宣言」の訳による。

### 1. FUNDAMENTAJ HOMAJ RAJTOJ

Dum multaj jaroj la ĝuado de fundamentaj homaj rajtoj estis ege malhelpata al ainoj en kampoj eduka, socia, ekonomia k.a. pro diversaj gentaj diferencigoj.

Pro tiu historia vidpunkto, la leĝo pri la aina nacio havu fundamentan doktrinon nenigi gentan diskriminacion kontraŭ la ainoj.

### 2. EDUKADO KAJ KULTURO

La tutŝtata diskriminacio kontraŭ la aina nacio sub la Leĝo protekti Eks-indiĝenojn en Hokkajdo, ne nur tuŝas la fundamentajn homajn rajtojn de la aina popolo, sed pliigas la diskriminacion de la ĝenerala publiko kontraŭ la ainoj. Tio malhelpas normalan evoluon de edukado kaj kulturo de la aina gento, kaj kaŭzas la malaltan nivelon de ainoj en socia kaj ekonomia vivo.

La registaro efektivigu jenajn rimedojn komprenante, ke la forigo de tia situacio estas la plej grava en la politiko por la aina nacio.

- 1) Efektivigi ĝeneralan edukadan politikon por ainaj gejunuloj.
- 2) Enkonduki programon instrui la ainan lingvon al ainaj gejunuloj.
- 3) Efektivigi rimedojn forigi diskriminacion kontraŭ ainoj el ĉiuj edukadaj kampoj en kaj ekster lernejoj.

# JAPANIGO DE NOMOJ AINAJ KAJ KOREAJ

## アイヌ人名と朝鮮の創氏改名

Acuŝi HOŜIDA (Tomakomai)

En januaro mia korea amiko (japania: loĝanta en Japanio) Kim Colbu (金哲夫) demandis min pri japanigo de ainaj nomoj. Temas pri studo de profesoro INOUE en Hokkajda Universitato pri japanigo de ainaj nomoj kaj koreaj nomoj, informita en korea ĵurnalo (中央日報 1993. 1. 10).

La moderna familia registro en Japanio komenciĝis post Meiji-Renovigo (明治維新) en 1868. Ĝis tiam, en feŭda epoko, japanaj plebanoj ne rajtis havi familian nomon. Nobeloj, samurajoj, kaj kelkaj privilegiitaj plebanoj rajtis havi ĝin. Ordinara plebano distingis sin de aliloka samnomulo per kunmetado de loknomo kun sia persona nomo.

En 1871 la Leĝo pri Familia Registro (戸籍法) estis proklamita, kaj validiĝis ekde la sekva jaro. Tiam ĉiu plebano devis decidi sian familian nomon por meti en la registran dokumenton.

Oni diras, ke tiamaj vilaĝanoj kunsidis por decidi siajn familinomojn en la vilaĝo de mia avo en Kjuŝuo (Kyusyu). Ankaŭ la loknomo ĝis tiam uzata por distingi personon, ofte fariĝis nova familia nomo.

Ankaŭ ĉe ainoj en Hokkajdo la afero iris same. Jen vidu kelkajn ekzemplojn.

Ĉiripahaeput (Aina nomo) → ĈIRI Haeto (知里波工登) : Nova reviziita nomo por registro),

Kannariki (A. n.) → KANNARI Kizoo (神成喜蔵),

Ekaŝipuni ( " ) → EGA Sibujiroo (江貫洗次郎),

Ekaŝiŭakka → AKAŜI Dakanosuke (明石和歌助)

Tosanrok → TOSAN Rokuhej (戸棧録平)

Noitak → NOITA Kjuusuke (野板九助)

Tiel ni povas vidi, ke la novaj nomoj por registro estas fruktoj de la klopodo iel konservi la danaskan formon de siaj nomoj.

Ĉar la aina lingvo ne distingas konsonanton voĉan disde senvoĉan, la supraj estas ekzemploj kiel oni faris novajn nomojn surbaze de la denaska formo. Parto de la denaska nomo, kiel ni vidas supre, formis novan familian nomon, majuskle montritan.

La kazo de IBOŜI Hokuto (遠星北斗), fama poeto mortinta 29-jara, montras alian ekzemplon. Lia patro decidis sian familian nomon de sia familia blazono ㄨㄨ, kiun li tradukis japanen laŭ la signifo "krucoj kaj steloj (= ĉigai ni hoŝi=遠星)". Tiun nomon poste oni kutimiĝis prononci "iboŝi".

Ĉar ĉiu ĉina ideogramo esence portas sian ideon (signifon) kaj ĉi-kaze okazis traduko de la blazono en japanajn vortojn esprimatajn per ideogramoj, la transpreno de sonoj ne okazis kontraste al pliantaŭaj ekzemploj. Tiaj pli-malpliaj tordiĝoj ĉiam okazis tie, kie iu gento sen literoj ekuzas ideogramojn por si. Jam en la oka jarcento en la antaŭvorto de Kojiki, la plej malnova japana historia libro, oni temis pri tiu dilemo.

En distrikto Hidaka troviĝas vilaĝetoj, kie ĉiuj loĝantoj portas saman familian nomon,

kvankam ne parencoj. Pri tio skribis aina verkisto KAJANO Ŝigeru kiel jene:

Ĉirkaŭ 1871 venis registara oficisto por fari familian registron de la loĝantoj. Al tiu distrikto apud la rivero Saru venis oficisto multe drinkema. Li nur drinkadis en sia gastejo. Proksimiĝis la limdato reveni al la oficejo. Haste li eklaboris plenumi sian devon.

"Ho, tiu vilaĝo estas nomata Pirautur (平取). Do, la loĝantoj portu familian nomon HIRAMURA (平村). Kaj ĝin najbaras Nibutani. Mi nomu tieulojn NITANI (二谷). Jen estas vilaĝo Pipaus. Kion signifas Pipa? Ho, konkulo (japane:kai=貝)! Kaj kion uŝ? Ĝi signifas 'estas'. Sekve, la loĝantojn mi nomu KAIZAŬA (貝沢)".

Tiel, tiu drinkema oficisto donis familiajn nomojn al ainoj laŭ la loĝloko. Pro tio la familiaj nomoj ne ĉiam prezentas parencon, sed la nomoj HIRAMURA, NITANI, KAIZAŬA k.a. pravas, ke tiuj familioj ekloĝis tie pli frue ol 1871. Ankaŭ ĉirkaŭ la riveroj Monbecu kaj Acuga troviĝas vilaĝoj, kies loĝantoj havas saman familinomon, ĉar la drinkemulo laboraĉis ankaŭ tie, oni diras.

Kvankam multaj japanaj plebanoj estis analfabetaj, la edukitoj aŭ inteligentuloj jam havis longan tradicion uzi ĉinajn ideogramojn por esprimi proprajn nomojn. Tamen ainoj ne sciis uzi literojn (ideogramojn) nek povis facile decidi sian familian nomon. Sed

multaj ainoj klopodis iel konservi sian gentan econ en sia nova familia nomo, kiel en supraj ekzemploj.

La korea ĵurnalo Ĉung-ang Ilbo (中央日報) informis, ke iama japana Oficejo de General-Gubernatoro en Koreio (朝鮮總督府) esploris en 1940 materialojn kiamaniere oni japanigis nomojn de ainoj. La dokumentojn pri tio eltrovis el la arkivo de parlamenta biblioteko Prof. INOUE Kaoru (井上薫) en Hokkajda Universitato. Li opinias, ke tio estis por sekvinta japanigo de koreaj nomoj. Li kredas, ke la japanigo de koreaj nomoj tuj poste farita, estis laŭ tiu modelo ĉe ainoj.

Tamen mi trovas ankaŭ grandan diferencon inter tiuj okazoj. Ainoj ne sciis uzi literojn nek fari dokumentojn, nek havis familian nomon. Do la familia registrado al ainoj okazis kvazaŭ oni donus familiajn nomojn al ili. Ĉe koreoj la afero estis tute alia. Ili jam longe uzadis ĉinajn idogramojn kaj siajn fonelikajn literojn (Hangulon), havis familian nomon kaj kutimon registri familian genealogion.

Do la japanigo de koreaj nomoj estis ja devigo nei sian nomon, nacian tradicion kaj preni por si novan nomon kiel japano. Antaŭ tiu peza perlitera tradicio en Korejo, tiama japana kolonia potenco bezonis sin pretigi kontraŭ forta rezisto de korea flanko, al mi ŝajnas.

# 「創氏改名」아이누族 사례 援用했다

アイヌ人名と朝鮮の創氏改名について、ご存じでしょうか？過去に自分の国がやったことを知ることは大事なことです。韓国の新聞記事は大阪の金哲夫氏から送られたものとのことです。

아이누족의 創氏改名은 1875년 1월 11일 日本帝國가 朝鮮半島에 領土權을 주장한 이후부터 시작되었다. 아이누족은 원래 日本列島の 北海道에 居住하던 민족이었다. 그들은 원래 狩猟과 漁業을 主要한 生業으로 삼고 있었다. 그러나 日本帝國가 朝鮮을 併呑한 후, 아이누족은 日本帝國의 同化政策에 따라 創氏改名을 강요받았다. 아이누족은 日本帝國의 同化政策에 따라 創氏改名을 강요받았다. 아이누족은 日本帝國의 同化政策에 따라 創氏改名을 강요받았다.

## 朝鮮總督府 요청에 北海道 事例

### 정위·方法 상세히 기록 植民史 연구공

朝鮮總督府는 北海道에 在籍하는 아이누족의 創氏改名 事例을 詳細히 기록한 報告를 請求하였다. 報告에는 아이누족의 創氏改名 方法과 정위를 詳細히 기록하였다. 아이누족의 創氏改名 方法은 日本帝國의 同化政策에 따라 創氏改名을 강요받았다. 아이누족은 日本帝國의 同化政策에 따라 創氏改名을 강요받았다. 아이누족은 日本帝國의 同化政策에 따라 創氏改名을 강요받았다.

朝鮮總督府는 北海道에 在籍하는 아이누족의 創氏改名 事例을 詳細히 기록한 報告를 請求하였다. 報告에는 아이누족의 創氏改名 方法과 정위를 詳細히 기록하였다. 아이누족의 創氏改名 方法은 日本帝國의 同化政策에 따라 創氏改名을 강요받았다. 아이누족은 日本帝國의 同化政策에 따라 創氏改名을 강요받았다. 아이누족은 日本帝國의 同化政策에 따라 創氏改名을 강요받았다.

## Hokkaidaj samideanoj helpas kamboĝanojn

A. HOŠIDA (Tomakomai)

Niaj membroj el Sapporo, MIYAZAWA N. kaj SATO E., nun (en junio) en Phnom Penh, helpas tieajn gesamideanojn por fondi "Kamboĝa Esperanto-Asocio"-n. Ankaŭ germana samideano helpas tion. En tiu internacia kunlaborado tie naskiĝas nova landa organizo en tiu multe suferinta lando.

現在 (6月中旬) プノンペン滞在中のS-anoj 宮沢、佐藤の2人は、現地のカンボジャ人、ドイツ人同志達と協力して、6月12日カンボジャ・エスペラント協会が誕生した。長い苦難を経てようやく平和を迎えようとするこの国で、エスペラントの緑の芽が伸びだしたことを喜ぶたい。2人からの連絡に応じて北海道連盟と苫小牧エスペラント会はすぐ創立大会へのメッセージを送った。

04. JUN. 1993

Nun, ni, du esperantistoj el Sapporo JAPANIO estas en Phnom Penh KAMBOĜO. Ĉi tie kamboĝaj esperantistoj preparas fondi la asocion "Kamboĝa Esperanto-Asocio". S-ro CHHIM Sokha kaj liaj samideanoj ĉiutage laboras por fondiĝa kunveno en la 12a de junio. Kaj samideano Horst GRUNER kiu laboras en germana ambasadejo helpas ilin.

Bonvole sendu salutan aŭ amikecan leteron al ili kiuj bezonas pacon kaj internacian amikecon en unu el la plej malfacilaj landoj. Se vi povos sendi ĝin sub la nomo de vi aŭ via organizo ĝis la 11a de junio al suba loko, ni tre ĝojos. Ĉar ni povos prezenti vian leteron en la malgranda sed historieca kunveno.

amikece via MIYAZAWA Naoto *Miyazawa Naoto*

SATO Eiji *Sato Eiji*

ĉe MIYAZAWA Naoto SUKHALAY HOTEL Phnom Penh  
Faksimila n-ro +855-23-26140





★  
 カンボジアエスペラント  
 協会の設立については、  
 「Revuo Orienta」及び  
 「Ra Movado」にも記事が  
 載るはずとのことでした。

Tomakomai. 1993. 6. 7.

Karaj kamboĝaj gesamideanoj.

De niaj membroj el Sapporo ni informigis, ke vi baldaŭ fondos vian asocion "Kamboĝa Esperanto-Asocio". Kia ĝojo por ni, aziaj esperantistoj!

Plenĝoje kaj elkore ni gratulas vin pro la fondiĝo de via nova organizo. Kaj estas por ni pli ĝoje, ke hokajdaj samideanoj povis iom helpi verdan ĝermon de nia komuna afero en via multe suferinta lando. Kresku kaj fortiĝu nia ĝermo en Kamboĝo!

Niaj membroj ĉe maja kunloĝado en Iŭamizaŭa entuziasme subtenis la agadon de samideano Miyazaŭa helpi aziajn gesamideanojn. Kvankam inter ni estas granda distanco, nin ligas nia kara lingvo Esperanto. Daŭru longe nia amikeco! Vivu Esperanto!

Hokajda Esperanto-Ligo

*Hoŝida*

Acuŝi HOŜIDA (prezidanto)

Tomakomaja Esperanto-Societo

(Subskriboj)



翻訳の依頼を受ける。

さる4月北星短大教授 谷 暎子氏、  
(児童文学の編集、翻訳をされている)より  
下記のエスペラント文学作品の翻訳を依頼さ  
れましたので、札幌エスペラント会(会長・  
児玉広夫氏)の学習会において学習を兼ね、  
共同で翻訳を行い届けました。

同教授より次のような礼状が届きました。

先日は大変お世話になりました。とても良  
い訳をしていただきお礼を申し上げます。

(中略)

岡 一太がエスペラント語のこの話に心を  
動かされ「うたをわれらに」の戯曲を書いた  
といえます。1930年代とのこと。

発表されたのは戦後のことで、戦後の代表  
的な児童劇なのです。

そんなわけで、ワクワクしながら訳してい  
ただいたものを読みました。

ほんとうにありがとうございました。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ハンガリア文学全集

MOR JOKAI

(1825-1904)

世界文学全集の最も偉大な寓話作家の一人  
彼の東洋的で豊かな幻想は汲み尽くせぬほ  
ど豊富である。彼の著作は100巻以上に及  
んでいる。彼の創作的な天才は、多面的な童  
話集のなか以外にも表れている。また彼の魅  
惑的で易しく、すばらしく明るい響きのある  
文体にも表れている。

♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪♪

七人の子のうち誰を

(内容の抄訳) 全文6ページ

ブダペストに住んでいた貧乏な靴職人の物  
語。

②一生懸命丈夫な靴を造っていたから、お  
得意さんは多く、未払い者もいないにもか  
かわらず、貧乏は一向解消しなかった。時  
には自殺への誘惑に駆られました。彼は敬虔  
なクリスチャンで、命を絶つことはできない

彼は富みや財産には恵まれなかったが、神  
様から毎年のように子宝が与えられた。

③子供の数が6、7、8人目となった。そ  
して9人目が生まれた時、最愛の妻が死んで  
しまった。

④それからは、昼は子供の世話、夜はバン  
のため働き続けた。幸いにも子供は健康で素  
直に育った。

⑤あるクリスマスの時に、子供たちのプレ  
ゼントを探しながら、それも、美しく良い  
もの、壊れないもの、消耗しないもの、みん  
なが喜ぶもの、取り合いなどのしないもの、  
しかも安価なもの。それは!

⑥家に帰ると子供たちは待っており、みん  
なで楽しむ夜が始まった。良い子にプレゼン  
トといいながら、神様への祈り、クリスマス  
賛歌や9人全体の大合唱やゲームetc。

⑦このマンションには2階に大金持ちの紳  
士が住んでいた。彼は富豪ではあるが孤独で  
あった。一階の部屋から余りにも賑やかで楽  
しい歌声が聞こえてきたので、たまりかねて  
訪問します。

⑧この富豪は、貧しい靴屋に、こんなに多  
くの子供がいては生活も大変だろうから、一  
人を養子に下さいと言い出した。きっと立派  
に育てることを約束した。そして子供を1番  
目から順番にこの靴屋は紹介した。しかし、  
父親は皆を平等に愛していたので選ぶことは  
不可能であった。そこで、子供たちにこの金  
持ちの人の養子になって立派な紳士になりた  
い人は名乗り出なさいと言ったが誰一人出な  
かった。

⑨この紳士(このマンションの家主でもあ  
る)は子供が養子に來ないことがわかったと、  
千フロリンの見たこともない大金(小切手)  
を渡し、もうこれ以上はみんなで歌はないで  
くれと言って自分の部屋に帰った。

⑩しかしこの約束(歌を歌わない)はとう  
てい守れないので、千フロリンの小切手を返  
しに行った。

それからはまた家族の大合唱が始まった。  
以上

1993・6・3  
宮岸 忠孝

ここにもエスペラント仲間が  
Jen estas samideanoj

6月24日の朝日新聞の投書欄に前橋市の堀氏の投書が載っていたと宮岸忠孝さんがコピーを送ってくれました。全国紙にエスペラントが載るのはうれしいですね。

kun  
plezuro  
por  
samideano  
Lou Harrison  
29 July  
'93  
Sapporo

札幌市で開催された音楽教育を中核とした国際的な音楽祭であるパシフィック・ミュージック・フェスティバルに作曲家として参加のルー・ハリソン (Lou Harrison) 氏はエスペランチストだそうです。〈ラ・コロ・スートロ〉が、北海道南西沖地震被害者への追悼として演奏されました。

前橋市 堀 泰雄  
(会社員 引越)

エスペラント関東連盟の大会が五月末に群馬県で開催された機会に、エスペラント語のネットワークを活用して、世界のカレンダーを集めてみた。三月に約五十カ国に日本のカレンダーを同封し、「貴国のカレンダーを送って欲しい」との要請文を同封して発送した。

紙に、私たちは、心打たれることが多かった。ラトビアから来たカレンダーには、一月から四月分までがなかった。手紙によると、郵便料金が最低賃金の三分の一にもなるので、百枚の簡冊で送らざるを得なかった、と。セピア色の一九三〇年代の写真で構成されたカレンダーは、ラトビアの現状を象徴しているように思えた。キューバのカレンダーは、ワラ半紙より粗悪な紙にガリ版刷りといったものだった。ソ連の崩壊で経済援助を打ち切られた苦悩がにじみ出ているようなカレンダーだ。戦乱のユーゴからも来た。ベネズエラやコスタリカといったなじみの薄い国からも来た。

### カレンダーはお国事情の鏡

送らざるを得なかった、と。セピア色の一九三〇年代の写真で構成されたカレンダーは、ラトビアの現状を象徴しているように思えた。キューバのカレンダーは、ワラ半紙より粗悪な紙にガリ版刷りといったものだった。ソ連の崩壊で経済援助を打ち切られた苦悩がにじみ出ているようなカレンダーだ。戦乱のユーゴからも来た。ベネズエラやコスタリカといったなじみの薄い国からも来た。

ハリソンのガムラン音楽では、ガムランの楽器と西洋の楽器がしばしば混ぜ合わされている。しかし、それは単なる表層的な折衷ではない。まったく異なる文化の上に成立しているはずの楽器が、そこでは見事なまでに溶けあわされている。インドネシアの人々からも賞賛を受けるほどにまで、ハリソンの音楽は繰り上げられ、きわめて自然な音楽の融合が果たされているのである。

今回のパシフィック・ミュージック・フェスティバルでは、このようなハリソンのガムラン作品がひとつ聴きどころになるだろう。その一つ〈ラ・コロ・スートロ〉(1971)は、100人の混声合唱とアメリカン・ガムラン、ハーブ、オルガンなどのために書かれており、ガムランの繊細な音色と合唱によって、壮大な響きの空間が作りだされる。「コロ・スートロ」とは、エスペラント語で「心の経」のこと、仏教のお経の一つのエスペラント翻訳が、テキストとして歌われる。

# 会費納入のお願い

Bonvolu pagi kotizon!

会計係 馬場 恵美子

会費は購読会員・会員共に2,000円(家族会員1,000円)です。またその際近況などを添えていただければ機関誌に掲載したいと思えます。(転居等の連絡もお願いします。)

会員になることで機関誌 Herolde de HELの購読、毎年行われる合宿、通信講座による添削指導などのサービスを受けることが出来ます。

また身近に興味をお持ちの方・今は活動を休まれている・会合をもたずにコツコツと学習を続けている・学習途中で止めてしまった方などを連絡していただければ機関誌を送ります。

さてそこであなたの現在の会費状況をこの機関誌の宛名に表示しました。(7月10日現在)

〒1887

北海道希望市夜明け7-26

道産子 らざろ

様

道E連盟 ☆☆☆

の内容は

- ① 道E連盟 1992-1993(会費期限)
- ② 道E連盟 ☆☆☆(入会をお薦めします)
- ③ \* 道E連盟 ★★\*(会費が切れています)
- ④ 道E連盟 寄贈 (E会、マスコミ他)

郵便振替口座

小樽 0-17075

北海道エスペラント連盟

会計係担当者住所

〒001札幌市北区新琴似7条8丁目5番34号

馬場 恵美子 8(011)761-8060 (夜9時隣)

☆☆☆近況報告(合宿申込書から)☆☆☆

Novajo

\*エスペラントはまだ話せませんが話す場を自分なりに作っていきたくと思っています。(沼津 大細 綾)

\*Estas bedaŭre ke mi ne povos partopreni en la kunloĝado, ĉar mi forestos 10-a - 20-a en majo. Bonvole transdonu mian saluton al s-ro Mituisi kaj aliaj partoprenantoj. (曲町 細 翔)

\*来年は必ず(合宿に参加します)鬼が笑うかも知れませんが!来年は定年となり暇になると思われるからです。(札幌 健 謙)

\*Mi volas, ke la inaŭguro okazu kun granda pompo. (札幌 アリマ ヨシハル)

\*ご盛会を期待しますーなどと月並みなヒトコトは書きません、何かひとつ確実に身につけたぞっ!と一人一人が自信をもてる合宿を計画していることを渡辺師ゆえに拝察致します。(仙台 福 秀)

\*Bedaŭrinde tempo estas nedisponibla por partopreni. (札幌 菅 正一)

\*のぞいてみたい気もします。(小樽 山本 昭二)

\*中3のときまで旭川に住んでいました。北海道の合宿もいつか参加したいと考えています。「基本エスペラント文法」も出版され沼津E会通信講座ともどもよろしく!(沼津 藤 貴一)

Heroldo de HEL

第47号(1993. 7.31)

北海道エスペラント連盟機関誌  
編集部

〒001 札幌市北区北12西1バケMS602

阿部映子気付 電011-756-2291

郵便振替口座 小樽0-17075

北海道エスペラント連盟